

旭陵関西

発刊にあたって



旭陵同窓会関西支部長
空谷 俊和



旭陵同窓会会長
加藤 康憲

当支部も発足三年目となりましたが、かねて懸案の会誌を発行することになりました。このために御苦勞頂いた担当委員の皆様へ、心からお礼を申し上げます。

会誌は、役員会・総会などの支部からのお知らせは当然として、本部や他支部の動きなども伝えていくことができればと思います。もちろん、会誌は会員全員のものでありますから、投稿は大歓迎です。ふるって投稿願います。

同窓会をより楽しい団体とするため、総会の折りにバザーを併せて実施してはどうか、会員の中から講演を行って頂くとか、いろいろな案も役員会では検討されました。この他にも貴重な御提案がいろいろかと思ひます。ぜひとも会員の皆様の御意向を事務局にお寄せ頂きたいと思ひます。

会員の皆様の御健勝、御繁栄と、同窓会の発展・充実に祈ります。

関西支部の皆様、残暑お見舞い申し上げます。
今年の夏はこの外猛暑続きでしたが、皆様にはお変わりなくご活躍のことと存じます。

さて、昨年の関西支部の発足より三年目を迎えましたこと、心よりお慶び申し上げます。昨年は阪神大震災という未曾有の災害にもかかわらず、関西支部での総会が開催され、被災された方も多数参加してくださいました。ここに改めて関係各位のご尽力に感謝する次第であります。

旭陵同窓会の下関での総会は、地元ならではの賑わいがあり、多数の皆様のご出席を頂きますが、各支部の総会もその土地土地の味わいがあり、感慨深いものがあります。同じ校舎に学び同じグラウンドに汗を流した者達が故郷を離れて、それぞれの社会でそれぞれの地歩を築いている。日々の生活の中であつ

発行人
旭陵同窓会 関西支部長
空谷 俊和
高槻市眞上町3丁目13の1
医療法人祐生会
みどりヶ丘病院 内
印刷所 (有)高岡芳清堂
TEL.0729-96-0083



下関西高校校長
天野 勝範

本部支部二つになった旭陵同窓会の運営が、これまでより一層求められる時代が来たと痛感している次第です。今後とも同窓会の活動にご協力頂きますようお願い申し上げます。

虫の音もこころよい季節となりました。旭陵同窓会関西支部の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、本校教育の振興のため

にご支援を賜っておりまして、衷心より篤くお礼申し上げます。本年も、旭陵同窓会関西支部におかれましては、平成八年度総会を盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。
昨年度は、当支部総会にお招きいただき、親しく皆様方から有益なお話をお聞きし、心温まるひと時を過ごすことが出来ました。誠にありがとうございました。

さて、今春も卒業生三三四名が新しく同窓会に入会いたしました。その進学状況も、入れる大学から入りたい大学へと指導しておりますが、国公立大学、私立大学ともに合格率が昨年に比べて伸びており、いわゆる難関校への合格者数には目を見張るものがあります。

また、部活動についても、文化部では囲碁部が県代表として全国高校囲碁選手権大会に出場し、同じく札幌で開催された全国高校総文にも出場しました。物理部もコンピュータ関係の人材を養成するために始められた「第一回ヤングソフトコンテストインヒカリ」に応募し、山口県教育長賞を受賞しました。

運動部では、野球部が、昨年のベスト四に続き、春の市長旗戦では優勝し、その勢いで夏の大会に期待をかけられたのですが、下関国際を11対1の5回コールドで緒戦をものにしたものの、2回戦はシード校の下関中央工業と対戦し、よく健闘したのですが、最終回に逆転され、涙を飲みました。サッカー部は県総体で、ベスト四に残り、準決勝戦で西京高校と対戦し、試合終

了直前にゴールを許し、惜しい試合を逃しました。

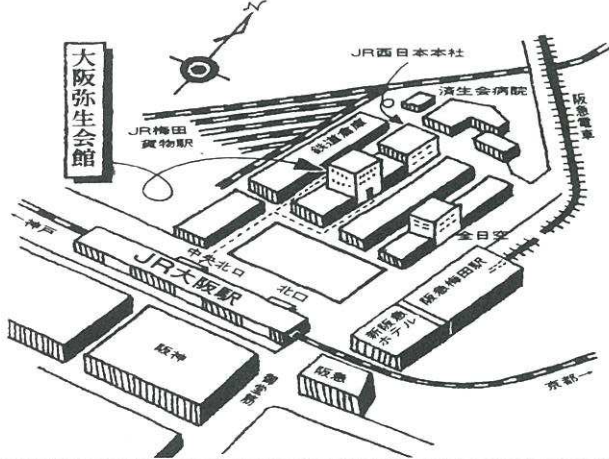
以上簡単に部活動の一端を紹介させていただきました。本年も各部とも新入部員を迎えて、教職員の熱心な指導と生徒諸君の活発な活動により立派な成果を上げてくれるものと楽しみにしているところであります。

本校も三年後には創立八十年を迎えます。先輩各位の築かれた歴史と伝統の校風の下で、「天下第一関」たろうとする理想の実現を目指して、生徒諸君や私達教職員は日々精進を続けております。今後とも先輩諸兄姉の一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

終わりに、旭陵同窓会関西支部のますますの発展と、先輩諸君の御健勝・恩活躍をお祈り申し上げます。お礼とお祝いのご挨拶といたします。

旭陵同窓会 関西支部 平成8年度総会のご案内

- 日時 平成8年10月13日(日) 12時～15時
- 場所 弥生会館 大阪市北区芝田2-4-53 TEL06-373-1841
- 会費 10,000円
- 同封葉書にて出欠の連絡を9月25日(必着)までにお知らせ下さい。
- 総会 12時～12時30分
- 来賓 加藤同窓会会長 本部役員数名 天野校長他
- 懇談会 12時30分～15時
- オークションやゲーム等(景品有)楽しい催物を企画しています。



大阪弥生会館近道
○大阪駅から歩いて約3分
○阪急梅田駅から歩いて約3分

旭陵同窓会関西支部役員

(支部長)	空谷 俊和	27期
(副部長)	瀬口 猛	30期
(幹事長)	安野 洋一	33期
(事務局長)	内藤 尚	31期
(兼会計)	甲斐 敏晴	31期
(会計監査)	石坪 英郎	18期
(常任理事)	野瀬 清	17期
	栗屋 保昌	32期
	瀬戸口 房康	32期
	野上 琢磨	32期
	福原 栄	33期
	岡本 三樹	33期
	福田 猛彦	35期
	古島 正晴	35期
	村上 弘治	38期
	山上 充昭	39期
	山内 英雄	40期
	後田 敏夫	42期
	篠原 久人	46期
	阿部 紀一郎	54期



平成七年度 総会の状況



無回答所感

瀬戸口 房康（32期）



会を三十二、四十二、五十二期、当番幹事となり、平成七年十月十四日午後一時より、天王寺の都ホテルで開きました。案内状の発送数八六通、出席四十五名、欠席三四名、無回答三七八通でした。ここで感謝の念とともに特筆しておきたいのは、スタート時点からの名簿の掌握、作成、発送等の事務に懸命の努力を頂いた内藤幹事長、甲斐事務局長（いづれも三期）と、空谷支部長の熱意です。

日本の第一位の都市圏でありながら、平成六年五月に設立総会を加藤康憲会長始め皆様のご尽力のお蔭で開催するまで、同窓会組織がなかったのは信じがたい事態でした。その関西支部の設立総会については、平成七年度の本誌に空谷支部長が寄稿されてますのでご参照ください。そして第二回総

会を三十二、四十二、五十二期、当番幹事となり、平成七年十月十四日午後一時より、天王寺の都ホテルで開きました。案内状の発送数八六通、出席四十五名、欠席三四名、無回答三七八通でした。ここで感謝の念とともに特筆しておきたいのは、スタート時点からの名簿の掌握、作成、発送等の事務に懸命の努力を頂いた内藤幹事長、甲斐事務局長（いづれも三期）と、空谷支部長の熱意です。

「第二回総会を振り返って」

末光 久（42期）



おまえも来いや」と電話がかかってきた。これが同窓会当番幹事のつかかりであつた。

第二回総会は、三十二期、四十二期、五十二期が、当番幹事に決まっていた。

その席で食べるのもそこそこに、先輩より我々四十一期生の名簿とともに、他三十名程度の同窓生名簿を渡された。とにかく美味いものを食べた以上は人を集めてくれ。各人目標十名。最低でも百人は集まらんといいかん」と厳しいお達しがあつた。名簿を見ると、同期生は別として、知らない人ばかりで、正直いって難しいなと思つた。

会合終了後、後田君と酒を酌み交しつづつ作戦会議。「おいどうする……」「とにかく電話をするしかないさ……」「なんとかするさ……」。その場は、「とにかく当つてみよう」との結論で散会した。

その翌日、川本君へ電話を入れ、「お

して、花束、記念品を進呈、ご本人の近況報告に続いて乾杯の音頭取、会場一杯に大きな拍手で包まれた事でした。今迄は各期がバラバラで同期会をもつてたようですが、ここに縦の連携としての旭陵同窓会関西支部が在関西同窓生の大きな交流の場として軌道に乗った手応えを感じました。ところで（39.8%）（43.9%）、何の数字がお分かりですか。前回、今回の無回答率です。単に関西支部のみだけでなく、本部、各支部の共通の悩みでしょう。その時々、環境、心理状態にもよるでしょうが、一通の案内状が手許に届く過程を類推する時、黙殺し破棄するなど頭脳明晰なはずの西高卒生としては、恥かしい限りです。

同様な例として我が期も旭陵三十年会があり、栗屋保昌君が支部長と

まえも当番幹事の一人やから……と応援協力要請。快諾。

その後、お互いに忙しい仕事の合間をぬつて電話作戦。「総会の案内をいただきます」との返事をいただいた時は元氣百倍。しかし、中には出張、不在、会議等なかなか連絡もつかず、やっと連絡がつけば「つれない返事」、大変な思いもした。途中何回か両君とも連絡を取るも、同じような状況で、まさに前途多難な雲行であつた。

こんなことを繰り返しているうちに、いよいよ総会の日。百名を超える多くの方々に出席いただき大変ありがたしいをいいたしました。

さて、ここで「平成七年関西支部総会」の概要について報告させていただきますと、

(1) 空谷俊和支部長挨拶

「名簿整理も固まりこれから本部や支部との情報交換を密にしてい

(2) 天野勝範校長挨拶

母校の状況、クラブ活動の様子につい

して関西支部が二十余年前から発足し、当時は手書で名簿の作成から、下関西高、南高恋し、同期生懐しのもと返信ハガキをつけて、送付したもので

そんな時、宇治市の水原静子さんから相当額の郵便切手を添えて、労いと、欠席の断りの返事をもらった時のさわやかな感動は今でも鮮明です。それと真反対の例ですが、雲上人のような同期生に二、三回案内した事がありました。なしのつづで、その人格を疑ったものです。

最初は約五十通でスタートしましたが、矢張り四割程の無回答が続き今では三十通程の案内にとどめております。いづれにもたようなものですね。以上案内状への両極端の対応を書きましたのは、前回、今回合計五九二通の

て報告。

(3) 加藤康範会長（本部）挨拶

「同窓会は親睦あるのみ……」

(4) 内藤尚幹事長の報告

「関西支部のさらなる基盤固めに協力」

(5) 甲斐敏晴事務局より会計報告

「何とかやり繰りして設立総会は赤字にならないようにした」（内実は若干の赤字であつた）

(6) 佐藤定雄大先輩へ、米寿を祝し花束贈呈、乾杯（関西支部最年長、第三期生）

「友達も皆死んでしまったので、私も早く（あの世へ）行きたいのだが……」とジョークを交え挨拶

「続いて二時間半の歓談タイム」

(7) 散会后、各グループ毎に二次会、三次会……

（以下私の知り得ている限りである）

◎四十一期生

出席者七名、五十二期生一名と、京橋のスナックにてその後梅田のラウンジへ。

無回答分、往復ハガキ換算五九、二〇〇円の無駄が、善意による同窓会の運営を圧迫しかねないからです。

その対策として内藤幹事長は二年連続無回答には案内状を送付しないとの断に全役員賛成。又広告の賛助による資金確保の為の会誌の発行決定、目下担当の方による編集作業が進められております。

次回同窓会は八年十月十三日、正午よりJR大阪駅前弥生会館で開催されます。

たかが案内状されど案内状、その回答のありようは、貴方の人柄を反映します。ご安心！

（注）本稿は、本年の下関での旭陵同窓会誌に関西支部を代表して昨年の当番幹事の瀬戸口氏に書いてもらったものです。

◎三十二期生、三十三期生他

女性数名、四十二期生グループ含、約二十名、梅田のラウンジで大歓談会。

時計を見れば、午後十時半をまわつてた。以上が総会の概要報告であります。

最後に、本稿をまとめるにあたり、西高時代の恩師の一人である「とうがん」こと英語の山本先生の言葉を思い出しました。

「最近西高生は、愛校心、仲間意識が薄く、クールであると同窓会の先輩の方が言われる。そのうちにこの意味がわかる時がある」と。今まさに私がそうなのかもしれない。そんなノスタルジックなど、いや難しく考えるのではなく、「集まってお互いに顔を合わせれば、全てのことが解消されてしまう」。これが同窓会のすばらしさではないでしょうか。

さあ同窓生の皆さん、あまり肩ひじはらずに、気楽に集まり、旧交を深め、また今と未来を語り合い、人生の中での一つの礎として、この旭陵同窓会関西支部を育てていこうではありませんか。

「校歌と私」

佐藤 定雄（1 期）

毎年高校野球が甲子園で始まる頃になると寂しい思いをするのだが、それは私にとって十七年間の学校時代を通じて、歌って燃えた校歌がなかったということだ。小学校から大学まで先ず下関市立文関尋常小学校に入学したのが大正三年そこで六年間、現在削り取られてなくなつた城山に学校はあつた。東南部町と王司町と下関市役所と警察署に取り巻かれた丘が城山と呼ばれ、ドイツの領事館があり、運動場も大変狭く児童数も五百人足らずだったと思う。勿論他校と対外試合などすることは全然なかったし、運動会が辛うじて出来た小さな小学校だったから校歌などなく、歌った記憶も全くない。

中学校も御承知の様にこの学校の運動場にあった二教室を借りて授業が始まり、特に初代校長は運動競技の応援などとしてのほかと嫌うところで、吾々野球好きな子供のグループも野球部として正式に認められず、とても練習など出来たものではなかった。そんな事情で新校舎が建ち広いグラウンドが使える様になったのは三年生頃からで、野球部ができて九人のメンバーが揃って練習らしい練習が始まった次第で、校歌もなければ応援歌もなく試合で他校の応援歌や校歌を聞かされる立場でしかなかった。そうは言うものの当時は対外試合も今日ほど熱狂しなかったせいもあり、その上出場してもたいてい一回戦で負けて、一回戦で勝った覚えもない。

そんなことで下商や、豊中などと試合してもいつも負け役だから応援歌も校歌も不要だったし五年間校歌を歌ったこともなかった次第である。そんなら勉強の方とは言われるとこれまた野球と同様で私はからきし駄目だったのだが、偶々まぐれであこがれの慶応義塾大学に入学できたのはよかったが、

これまた「都の西北早稲田の森に…」という校歌に圧倒されどしどしで、何かにつけ五角の好敵手として熱戦に無我夢中で応援するものの、校歌らしきものはあるにはあつたらしいが「若き血に燃ゆるもの」一点張り、天下の三大校歌の一つとして称揚される早稲田の校歌には及ぶべくもなく、かくて私にとつて小学校以来正に十七年間校歌には大変縁がなく、青春の熱血を校歌に散ずることはできなかった。

まあ以上の次第で昨年下関商業が甲子園の高校野球大会に久しぶりにやつてきたので、同郷のよしみからも、かつての野球の先輩校でもあり、テレビの前で応援の結果初戦に勝つて、「歴史に富める下関、未来に富める下関」の校歌を聞いてわが事の様に喜び且校歌というものがこれほどありがたく、歌うものも聞くものも、心を一つにして母校の名譽を讃える「瞬の感動を押さえられないもの」とあらためて知ることが出来ました。

こんなことから老骨も今一度疎遠だった校歌を合唱出来ないものかと思ひ始め、同窓会で歌えればどんなに楽しく、嬉しいことかと本部の同窓会長の加藤さんをお願いして、関中の校歌と下関西高の校歌をテープに録音したものを是非二つ作成して下さいの様にお願いした次第である。

幸いにも旭陵同窓会関西支部も結成されたことだし、若き日を懐かしみながら会場で皆さんと大合唱することが出来るならばこれに越した喜びはないと切々たる思ひをこめた念願を快諾してもらつて去る六月に加藤会長の御厚情により下関中学校歌、西高の校歌おまけに「久遠に蒼く」などの録音テープを届けて下さつたことを感謝したいと思う次第である。早速テープを再生してみると思ったより勇壮なオーケストラの伴奏と共に歌い出され「瞬驚き且老春の血は湧き身近かに下関中学校も西高も甦つた思いで、加藤会長さんに改めて厚く御礼申し上げます。本年も企画されるであろう同窓会場

で皆さんといっしょに大合唱できれば、校歌の無かつた私の十七年間もあつとんで、感涙にむせぶことだろうと思つている次第である。

最後に生き残りの「同窓会員のこの願いをどうか役員の皆様方の御尽力により、せめて会場に於いてうまく歌えないまでも、テープの再生のボリュームをあげてあの世の同窓の諸兄にも聞かしてやつてもらいたいと、かく思いながら投稿の禿筆をおくことにする。

昨年の総会で私の「米寿」を祝つて頂き大変感激いたしました。皆様に、厚くお礼申し上げます。

（注）昭和二十四年までは下関中学校でした。

「歌」一題

築多 泰造（21 期）

（その一）

皇紀二六〇〇年（昭和五年）四月関中入学でした。

入学式で始めてお目に掛つた香川校長が当時の流行漫画「のらくろ」の大隊長そっくりで、ロング教頭が同じく中隊長にそっくりだと感じ、この学校は楽しそうだと思つたものでした。

新築間もない弓道場を持つ弓道部に入つたら、部長は全教員一番こわいトンボ先生だったが、部員に対しては本当にやさしい先生であつた。又先輩の相賀、平山、塩田、青木、松岡各氏に可愛がられました。

一年の終り頃、トンボ先生の御自宅で卒業部員の送別会があり、生れて始めてのこんな会に面喰い乍らの楽しいひとときでした。会の帰り同じ彦島に帰る船を待つ間、相賀、平山、両先輩が岸壁から暗い海に向かって唱つた「緑の地平線」が私が始めて感動した「大人の歌」であり、流行歌でありました。

（その二）

齢を重ねて来ますと、次第に昔が懐

かしくなり、同窓会、同期会が待たれる様になります。会に出て何十年振りの旧友と交す昔話しが一番の楽しみですが、会の終りの校歌斉唱が更なる楽しみである。

童心に帰り、走馬燈のように次々に浮び上る懐しい風景、出来事。そして湧き出て来る母校愛：参会者皆んな輝いた顔をして居る。

過日〇〇大学の工学部卒業生の会である〇〇工業会の全国支部長会がありました。その節に「青天の霹靂」的意見を聴きました。「同窓会での校歌合唱を止めて頂き度い」との要望がアチラコチラからあるがどうだろうかとの発言でした。

愕然として拝聴した後で色々と考えて見ましたが私の結論は、

（イ）時代が変わつたでは済まされぬ。
（ロ）自己中心的教育か。遂に母校愛をも否定する様になった。
（ハ）そんな意見の人は何かと可愛想な人生であらうか。

（三）校歌斉唱に共感出来る人だけが参集する会がよい。

「メ切」

村上 充昭（39 期）

（一）、長生きしたかつたら、できるかぎり「約束」をしないこと。

「約束」は、必ず「荷物」となり、「荷物」は、遠からず「ストレス」となる。

ストレスの身体に及ぼす悪影響は、ここで説明するまでもない。

みずから荷物を背負わなくても、世間ほとんど荷物を背負わせてくれる。とすれば、荷物からいかに逃げ出すかが、長生きのことということになる。

（二）、ところで、仕事を引き受ける場合「予定」は「未定」だということを知り、い程依頼者に説明して、念を押しておかないと常に嘘つき呼ばわりされることになる。

特に相手方の存在する交渉」とはほとんどの場合、結論はどうなるか分からないからである。

仕事柄、常に事件の勝敗を聞かれ、何時頃解決するかを問われる。

そして依頼者は、ほとんどの場合自分の失敗は棚に上げ、都合のよいことばかりを並べ、自分が正しい、又は、間違つていないと主張するきらいがある。

とすれば、世の中、人の数だけ「正義」が存在することになる。

紛争は右の「正義」と「正義」とが衝突するところに発生する。

（三）、さて、仕事がかたづかないのは、仕事を始めないからである。ものごとをおわらせようとすれば、先ず始めなければならぬ。しかし、始めるだけでは終わらず、適当なところで打ち切らなくてはならない。

この打ち切るというのが難しい。完全を期すからものが終わらないのである。

（四）、ここで登場するのが「メ切」である。「メ切」というのは、ある時期が来たらとりあえず仕上げるということである。ストレスがたまるのは、仕事がかたづかないからであり、いつまでも終わらないからである。

ストレスの解消方法は決して遊ぶことでも、酒を飲むことでもない。

「メ切」をどんどん作つて仕事をさばけば、ストレスはたまらない。

精神の健康の源は、「メ切」にあるといつても過言ではない。

（五）、そこで本稿の結論。

「約束」はしない（荷物）は背負わない、やむを得ず「荷物」を背負つたら、早くそれをおろすこと。「荷物」をおろす方法は、とりあえず始める、始めたら適当なところでやる（メ切）。

完璧を期さず、ある程度「いい加減」になること。世の中「いい加減な奴」が結構幅を利かせている。

弁護士活動二〇年の感想である。おそまつ。

村上法律事務所

弁護士 村上 充昭（39期）
弁護士 村上 恵美子

事務所 〒530 大阪市北区西天満4丁目6番19号
北ビル2号館5階502号室
TEL 06 (365) 7005 FAX 06 (365) 0819

医療法人祐生会

みどりヶ丘病院

診療科目：

内科、消化器科、小児科、外科、脳神経外科
整形外科、眼科、歯科、理学診療科、麻酔科
放射線科、人間ドッグ

ベッド数：333床

理事長 甲斐 敏 晴（31期）

〒569-11 ☎0725-81-5717(代)
大阪府高槻市真上町3丁目13番1号

★広い機能訓練室、天然温泉のある施設

みどりヶ丘老人保険施設

ベッド数：入所100床・通所50名

理事長 甲斐 敏 晴（31期）

〒569-11 ☎0726-92-3111(代)
大阪府高槻市奈佐原4丁目7番1号

「西高の現状、そして前途は？」

校内幹事 大場 仁史（42期）



科目は特に大変である。三年前からの新教育課程では、「生徒の特性・進路等に応じて適切な教育を行う」としていることから、例えば、教科書には四分野あり、この中から二分野を週二時間で終わることになっているにもかかわらず、大学受験の内容が不

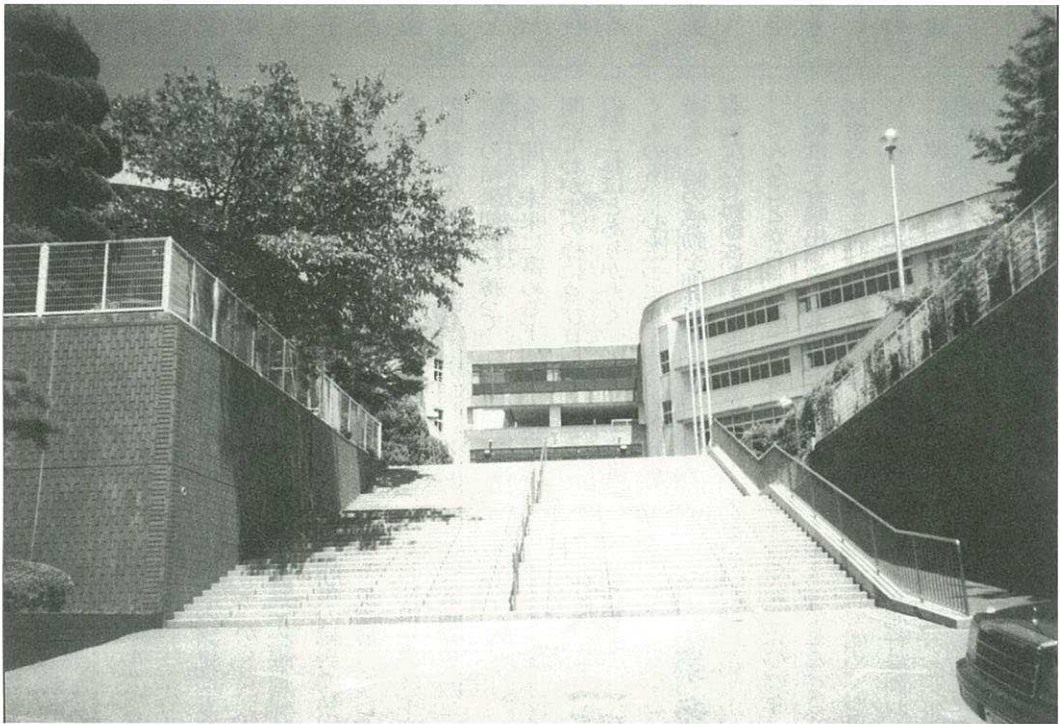
これまでになく時数不足に苦しむことになってしまった。各校とも対策に苦慮しているが、その対策として
一、授業前の授業（0時限）、または七時限を設ける。
二、五十分授業を六十分授業にする。

関西支部結成三年目に当たり、総会開催に加えて新聞も発行されるという。そのパワーに圧倒されるとともに地道な活動に敬意を表するものです。

最近の「西校の現状についてのレポートを」ということなので少し書かせていただくことになりました。

同窓会の集まりでまず話題にのぼるのは「進学」の状況である。かなり昔のこととはさておいて、過去十年間の卒業生、合格者実数並びに国公立・私立大学合格者延数は別表の通りである。一時のベビーブームのピークも過ぎて、卒業生も減少の一途をたどっている割には健闘していると思うがいかがだろうか。

最近の大きな変化のうねりは、土曜日の休日に始まるものである。平成五年九月から四週五休が始まり、平成七年からは四週六休となった。しかし困ったことに、授業日数が減っても授業内容が変わるわけではないので、受験



透明なので、進学校ではいきおいでさるだけ多くの分野を学習せざるを得ない。このような教科もふえ、

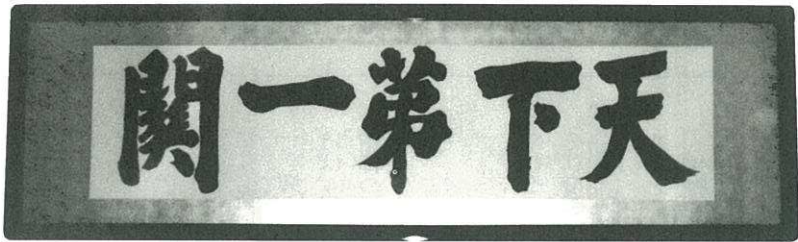
づいての旅行、スキー研修、そして国際化にそなえての国外旅行というように変わってきている。

三、行事を整理統合する。等々の方法が考えられている。

九州や私立高校では早くから(1)の方法がとられているが、山口県では(3)の方法が多いようで、西高もそのひとつである。各行事をとって考えてみると、その時代につれて変化する。

修学旅行でも、昔は大陸への旅行、戦後は観光地巡り、続いてグループで計画しこれにもと

かなりの諸行事も整理統合してきたが、最後まで残ったのは、「体育大会」と「文化祭」である。両方とも伝統的かつ意義のある行事ではあるが、隔年実施の方向で進んでいる。体育大会のない年はクラスマッチを少し盛大に、文化祭のない年も、文化部の発表の場や卒業生による文化講演会を残すなどの処置はとっているものの、時代の波はどうしようもなく、進学校を維持していくためには止むを得ないと思われる。



卒業生総数推移

項 目	男 子		女 子		合 計		平成4年を100として
	人 数	ウエ卜	人 数	ウエ卜	人 数	ウエ卜	
昭和62年	280人	80%	69人	20%	349人	100%	86
63年	277	79	75	21	352	100	87
平成 元年	317	80	79	20	396	100	98
2年	319	81	74	19	393	100	97
3年	313	78	87	22	400	100	99
4年	308	76	97	24	405	100	100
5年	275	70	116	30	391	100	97
6年	252	71	101	29	353	100	87
7年	235	71	91	29	316	100	78
8年	216	67	105	33	321	100	79

大学合格者実数推移

項 目	男 子		女 子		合 計		合格率
	人 数	ウエ卜	人 数	ウエ卜	人 数	ウエ卜	
昭和62年	128人	74%	45人	20%	173人	100%	49.9
63年	146	72	75	28	202	100	58.0
平成 元年	132	69	59	31	191	100	48.8
2年	149	78	43	22	192	100	49.6
3年	158	74	56	26	214	100	54.7
4年	144	68	67	32	211	100	53.0
5年	129	64	72	36	201	100	51.4
6年	139	71	58	29	197	100	55.8
7年	128	64	71	36	199	100	63.2
8年	126	61	80	39	206	100	64.2

大学合格者数推移

(延人数)

項 目	現 役			1 浪			2 浪 以上			合 計		
	国公立	私 立	計	国公立	私 立	計	国公立	私 立	計	国公立	私 立	計
昭和62年	155人	95人	250人	149人	167人	316	28人	30人	58人	332人	292人	624人
63年	191	112	303	123	175	298	20	29	49	334	316	650
平成 元年	191	83	274	128	185	313	19	44	63	338	312	650
2年	148	115	263	118	197	315	10	31	41	276	343	619
3年	162	127	289	105	268	373	27	60	87	294	455	749
4年	135	150	285	97	253	350	28	59	87	260	462	722
5年	145	121	266	103	305	408	5	48	53	253	474	727
6年	132	130	262	132	337	469	27	70	97	291	537	828
7年	134	150	284	105	276	381	15	43	58	254	469	723
8年	141	114	255	71	167	238	17	50	67	229	331	560

「ふるさと」は元気だ!

片野 静次 (42期)



関西支部総会おめでとうございます。

また、「同窓会新聞」の発行おめでとうございます。

関西支部の同窓生の皆様方の元気な様子が伝わってまいります。益々の活躍を期待しております。ふるさと下関でも、同窓生の皆さんは、大変お元気で、それぞれ各方面で活躍しております。

おかげ様で、下関の街の様子も変わってきました。昔の面影を残した所も沢山ありますが、駅周辺からウォーターフロントにかけて、面目を一新しております。街のすばらしき伝統を守りながら、来たるべき新しい時代に向かって、挑戦を続けているのが、今の下関です。

この夏、七月二十日、豊前田の地に、山口県国際総合センター(海峡メッセ)がオープンしました。一週間に亘るオープニングイベントが華々しく開催されました。二十万人以上の来館者があり、二十以上のイベントが開催され、大変な盛り上りを見せました。

イベント最終日には、恒例の「海峡花火大会」が開催され、二十五万人の観客が集まりました。門司側の三十万人とあわせると、関門海

峡をはさんで五十五万人の人数があったということです。海の上や海の中から、一万五千発の花火を上げました。岸壁からは、六〇〇メートルの仕掛け花火を行い、夏の暑さを吹き飛ばしてくれました。この花火大会は、例年八月十三日に開催されますが、今年だけ、海峡メッセのオープニングを記念して繰り上げられた訳です。今では、日本中に知られる「海峡花火大会」になっています。

また、イベント期間中に、約一ヶ月間、下関発のFM放送を行いました。約200名のボランティアスタッフによるイベントFM「シーボックス」です。朝6時から夜の12時迄楽しく盛り上がり、FM放送が続けられました。他のどのFM局にも負けない、生放送のライブ番組のすばらしい放送でした。下関弁が、電波に乗って、八幡から小野田迄のエリアに拡がって行き、下関の情報を発信し続けました。

痛快なものです。今は、FM局の常設を目指して計画が進められております。国際総合センターには、釜山市や慶尚南道、青島市、山東省などの政府事務所や、香港などの海外商社の事務所も開設されています。東アジアの交流拠点の一つになればと期待されています。

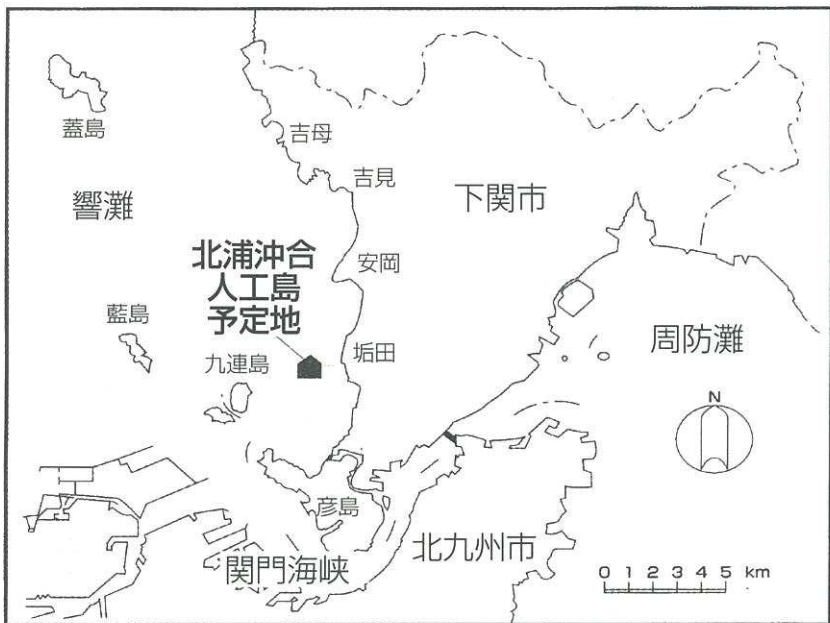
また、今年の七月十七日には、北浦沖合人工島のケーソンの吊り出し式が行なわれ、本格的な工事がスタートしました。下関がもつポテンシャルを様々なプロジェクトが引き出してくれることを願っております。

関西で活躍の同窓生の皆様方からの大きな力強いバックアップをお願いいたします。また下関に帰って来られて、下関の活性化のために、直接活動していただければ、さらに良いと思います。

ふるさと下関は、元気です。どんどん、下関へ帰って来られる機会を増やして下さい。



写真：国際総合センター、海峡メッセ夢タワー



分譲住宅・不動産業全般 大住建設株式会社

代表取締役 山内 英雄 (40期)

吹田市垂水町3-35-11
TEL (会社) 06 (338) 5000
(自宅) 06 (330) 1069

有限会社 西村電機サービス

代表取締役 西村 勲 (33期)

〒588 大阪府堺市深阪548
TEL 0722 (36) 9508
FAX 0722 (34) 2852

ご家庭からコンビニートまで明日の安全を見つめています。

株式会社エフエム伏見 相談役 石 坪 英 郎 (18期) 電話 075(602)0845	京都府立医科大学 安 野 洋 一 (33期) 電話 075(251)5585	東洋紡績株式会社 今 橋 聡 (43期) 電話 075(21)1488	東洋紡績株式会社 杉 顕 紹 (43期) 電話 06(384)3221
京都ステーションセンター株式会社 空 谷 俊 和 (27期) 電話 075(365)7512	本 妙 寺 藤 井 日 爾 (33期) 電話 06(791)6637	阪急電鉄株式会社 岩 間 之 三 (43期) 電話 06(373)5276	日本ユニシス株式会社 関 本 博 (43期) 電話 06(343)5272
瀬口法律事務所 瀬 口 猛 (30期) 電話 06(364)9117	積水化学工業株式会社 松 本 格 (33期) 電話 03(3434)9218	松下電工株式会社 奥 田 一 夫 (43期) 電話 06(908)7854	松下電工株式会社 永 富 浩 (43期) 電話 06(909)9416
みどりヶ丘病院 甲 斐 敏 晴 (31期) 電話 072(681)5171	株式会社富士銀行 古 島 正 晴 (35期) 電話 06(202)2251	レジノカラー工業株式会社 小 野 宗 司 (43期) 電話 06(301)0636	松下電工株式会社 花 本 輝 樹 (43期) 電話 06(947)1430
(株)クボタ 内 藤 尚 (31期) 電話 06(648)2423	株式会社鴻池組 福 田 猛 彦 (35期) 電話 06(244)3732	株式会社光アルファクス 門 田 宰 (43期) 電話 06(281)1821	株式会社味鉄 安 田 好 幸 (43期) 電話 078(411)1818
関西交易(有) 栗 屋 保 昌 (32期) 電話 06(678)6111	鋼洋株式会社 後 田 俊 夫 (42期) 電話 06(539)7506	東洋アルミニウム株式会社 斉 賀 俊 造 (43期) 電話 06(271)3156	丸紅株式会社 山 田 照 憲 (43期) 電話 06(266)3043
近畿マシナリー(株) 瀬戸口 房 康 (32期) 電話 072(924)9900	大洋真珠株式会社 川 本 俊 郎 (42期) 電話 078(303)6000	川崎重工業株式会社 澤 井 正 和 (43期) 電話 078(300)8656	帝人商事(株) 永 地 英 仁 (52期) 電話 06(266)8045
(有)野上包装資材商店 野 上 琢 磨 (32期) 電話 072(587)3300	松下電器産業株式会社 末 光 久 (42期) 電話 06(949)2272	株式会社東京三菱銀行 白 石 光 憲 (43期) 電話 06(708)2831	他 有 志

旭陵同窓会関西支部規約

第1条 (呼称)

この会は、旭陵同窓会関西支部と称する。

第2条 (事務所)

この会の事務所を大阪府内に置く。

第3条 (会員)

この会は、旭陵同窓会員であつて、関西地区に在住、または勤務するもので組織する。

第4条 (目的)

この会は、会員相互の親睦を深め、知識を交換するとともに、母校の発展に寄与する。

第5条 (事業)

この会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 定期および臨時会合の開催。

(2) その他必要な事業。

第6条 (役員)

(一) この会に次の役員を置く。

(1) 支 部 長 一名

(2) 副支部長 若干名

(3) 顧 問 若干名

(4) 幹 事 長 一名

(5) 事務局長 一名

(6) 常任幹事 若干名

(7) 当番幹事 当番卒業期全員

(8) 幹 事 各卒業期に一名以上

(9) 会 計 一名

(10) 会計監査 一名

(二) 前項の役員は幹事の中から互選する。

第7条 (役員の職務)

(1) 支部長は、支部を代表し、この会を総理する。

(2) 副支部長は、支部長を補佐する。

(3) 顧問は、支部長の諮問に応じ、この会の目的達成に協力指南

する。

(4) 幹事長は、諸会務を掌理する。

(5) 事務局長は、この会の総務を掌り、諸会合を総括する。

(6) 常任幹事は、支部長を補佐し、この会の運営に当る。

(7) 当番幹事は、卒業期ごとの輪番制とし、当番卒業期全員が諸会務を分担する。

(8) 会計は、金銭、物品の出納および管理を掌る。

(9) 会計監査は、会計事務を監査する。

第8条 (役員の任期)

当番幹事を除く役員の選任は支部総会においてこれを行い、その任期は2年とし、再選を妨げない。役員の任期が満了しても、次期役員が選出されない時は、次期役員選出までその任に当る。

第9条 (予算および決算)

(1) この会の年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(2) この会の経費は、会費、名簿代、広告料および寄付金等によって支弁する。

(3) 会費は、総会の決議によって決める。

(4) 支部長は、毎年10月に総会を召集し、当該年度予算と前年度の収支決算書を提出し、承認を求めるものとする。

第10条 (変更通知)

会員が現住所、勤務先、氏名等を変更した時は、速やかに支部事務局長宛通知するものとする。

第11条 (規約更改)

規約の更改は、総会の決議を経て行う。この規約に規定のない事項については、旭陵同窓会会則を準用する。

(付則) 平成6年5月14日施行

「気になる事が」

後田敏夫 (42期)



『ドッドドッ、ドカーン』と云う地響で、目が覚めたのは、平成七年二月七日午前五時四十六分、震度七、マグネチュード7.2都市直下型の阪神大震災であった。兵庫県芦屋市の芦屋浜シーサイドタウンに位置する高層マンション(29階建)の七階に住んでいるのですが、その時の、約二十秒間がとても長く感じられた。

位置に無く、移動!!倒壊!!特に台所は凄まじいばかりであった。『皆、異常ないか?』全員の点呼、何とか軽い怪我で済んだ!!幸だったのは、各室のドアを、通常開けっ放しにしているので簡単に家族全員の安全が確認出来た事でした。ある友人のお宅では、家具の倒壊の為、ドアの開閉が不可能となり、子供達の救出に随分御苦労が有ったとの事でした。兎に角大変な、とても無い地震が来た事だけは、全身で判りましたが、何しろ真暗闇の世界です。懐中電灯にラジオ、そして情報収集...地震についての詳細は要を得て無く『震源地、震度、等々』、『?』の状態であった。午前八

時過ぎには、幸せにも電気が復旧、我家のテレビも何とかその機能を残しており続々と情報が映し出されていた。『何!!阪神高速道路の高架が寸断、一部倒壊している?』、真に絶句であった。その後の震災の惨状はニュース報道で承知の通りです。沢山の尊い人命、家屋が失われました。合掌!!

震災以来一年七ヶ月が過ぎようとしています。確実に復興も進み、あの『絶句した』阪神高速も、九月には全線開通の運びになる。まだまだ復興へのドラマは続く事と思いますが、少しばかり気になる事が有ります。震災後の『人の優しさ!』、『思いやり!』が、ほんの数日間であつた、今、何か殺伐とした気持ちを抱くのは、私だけであろうか?

思い過ぎで有つて欲しい。

「あの日」

川本俊郎 (42期)



東京よりスタートし、博多、広島、千葉と転勤で各地を巡り、平成三年より神戸の人工島、ポートアイランドに落ち着き、そして「あの日」に遭遇しました。

平成七年七月十七日五時四十六分「ゴ」という音とともに上下左右に凄じい「揺れ」が始まり、物が飛び交い、毀れる音の中で「死ぬのかな」という思いがよぎり、十数秒後静寂が訪れた。私はタンスの下敷きになったまま、何が起きたのか、取敢えず死ななかつ

たんだと呆然としていた。長女の「助けて」の声に妻が「大丈夫?」と声をかけながら被さったタンスから助け出し、次女の無事を確かめた後、私もタンスから助け出された。(その後、父の権威は大いに失墜した。)部屋の中はガレキ場と化し、食器類を初め、テレビ、レンジ等も方々に飛び散り、足の踏み場もない有様でした。家族四人の無事な姿にほっとし、取敢えず毛布を広げ、割れ物を片付け、余震で閉じこめられないよう玄関のドアを開けた後、おむすびをほおぼる。明るくなった周囲を見廻すと、建物の損害はそれほどでもなく(?)未曾有の大災害だとはその時は思いもしませんでした。その日以来、私は会社

の復旧に忙しく、妻と娘二人が給水に買い出しにと大奮闘の毎日の中、ぼつぼつ電話もつながりはじめ、多くの方から見舞いの連絡を頂き、無事の報告で安心して頂きました。震災後最初の土曜日は、大阪天保山行きの臨時線で江坂在住の山内先輩(西高四十期)宅へおじゃまし、家族四人おもしろいほど落ちる「垢」に歓声をあげながら、入浴に、洗濯にと思いきり水を使い、紙でない普通の器のご馳走を堪能した。その後、二月下旬に水道、ガスが再開されるまで、毎週末、山内先輩宅を訪れる毎日、本当にお世話になりました。

有難うございました。また、大阪在住の従姉妹からは、ポリタンク(超貴重品)、ガスコンロ、食物等の差し入れを度々受け、普段にも増して縁の有難さを感じました。四十年以上も昔の生活を思い起こす毎日は、書ききれない程様々な事がありました。

先輩・同期・後輩との出会い

杉 顕紹 (43期)



西高を卒業してちょうど三十年目を迎えた。まだ山陽新幹線もなかった昭和四十二年、入学試験を受けるべく特急で京都に向かった。今はどうなっているのだろうか、当時、受験生は先輩の下宿に泊めてもらって試験を受けるという慣行があり、二月末の底冷えのする京都駅に不安な気持ちで降りたわれわれ受験生は先輩諸氏の出迎えを受けた。その時のほつとした気持ちと駅前でご馳走になった天津飯は今でも思い出す。

いた小生、岩間之三、三宅哲生の三人は八木哲臣氏(三十九期)に喫茶店に誘われビールを馳走になった。おかげでその夜はぐっすり眠れ、発表を見るとその三人が現役で合格するという幸運な結果になった。入学後も先輩諸氏とはよく行き来させてもらった。前夜に河元昇氏(四十期)の部屋だったかで、飲んでいて二日酔いで起きられず欠席した入学式に始まり、同窓会でのハイキング、忘年会、下宿での酒宴...蔵永泰彦高城剛氏(三十九期)亡くなられた山田孝氏(四十期)三原弟平・森杉馨氏(四十二期)など個性豊かな先輩方と飲み、議論し時には取っ組み合いもありという誠に得難い雰囲気の中で学生生活を送ることができた。

小生は西之原敏州氏(四十期)の下宿に約一週間泊めてもらったのだが、この先輩全く下宿に顔を出さず、小生は先輩の部屋を自分の部屋のようにして生活したものだ。その試験だが、初日の前夜は緊張で睡眠不足気味。しかも数学が難しくしてしよ

あれから一年半が経過し、随分昔にも、またつい先だつての感もする今日この頃です。高速道路も今年の九月末には全面開通し、神戸の街並みも表面的には以前と変わらない程に復旧が進んでいます。が、一方では未だ避難生活の方、大勢の仮設住宅住いの方、更に解体後空地のまま手付かずの土地が方々に残っています。「頑張ろう神戸」を相言葉に明日に向かって着実に歩みを進めている神戸を訪れて頂けたらと思います。近況に代えて。

東洋紡に入社して、同じ四十三期生が一人いることを知った。斎藤規：野球部で鳴らし今は東京で繊維の市場開拓の責任者、今橋聡：大津の研究所で感光性樹脂の開発リーダー。また、小林博君(四十七期)：東京で包装用フィルムの営業を担当、藤沢浩君(六十一期)：研究所で遺伝子組替による植物の改良、村上俊昭君(六十四期)：同じく研究所でポリマー合成プラントの開発と、後輩も多方面で会社を支えている。

昨年関西地区総会を機に、奥田夫、小野宗司、門田幸、沢井正和、山田照憲の同期生や懐かしい先輩とも旧交を温めることができた。八月には、岩間、奥田、小野のメンバーでゴルフをやることになり楽しみにしている。同窓の士との交友が再びその密度を増していく時期にさしかかったのだらうか、そこで共有できる「西高の空気」を大切にしていきたいと思う。

土佐料理・活魚料理

土佐っぽ

代表取締役 中平興紀

有限会社 土佐っぽ

大阪市北区中津1丁目6番33号
〒531 TEL (06) 373-3426(代)
〒531 大阪市北区豊崎5丁目7番23号

有限会社 クレア

代表取締役 坪内邦一 (43期)

〒660 尼崎市初島町16-16
TEL 06 (481) 3338 (代表)
FAX 06 (481) 3339

各期の同窓会の開催状況について

期	開催月日	開催月日	目安人員	連絡先
17	10月9日 前後の土日	東急イン		大塚甲子郎 0823-54-2240
18	10月3日 (例年10月第3土)	玉造温泉	20名	海老沢 保 0832-52-3598
19	3年毎 (前回平成7年)	下関	30名	中島 保 0832-53-2680
24	10月5～6日	一ノ俣温泉	20名	中原郁生 0832-23-0490
28	10月19日	シーモールパレス 15時～		関西では 成藤0727-59-3749
30	3年に1回	下関	120～130名	不明
31	毎年11月第2土 関西 12月か1月 関東 5月	シーモールパレス みどりヶ丘病院 東京	50～60名 15名 30名	前田 0832-56-7556 甲斐 0726-81-5717 森 03-3643-5144
32	8月5日 (5年毎)	シーモールパレス	180名	石原忠夫 0832-66-4327
33	9月14日	シーモールパレス	60名	武安誠正 0832-59-1931
35	10月 12月	ゴルフコンペ 忘年会	20名 25名	藤本 0837-76-0924 福田 0725-56-0746
38	毎年 不定期			竹中（亀山宮） 0832-31-4748
42	1月2日12時 関西 支部総会後	しづか 二次会	30名 15名	片野 0832-34-1762 末光 07437-6-5338
46	毎年11月第3土～日 総会後	県内持ち廻り	40名 30名	大神健司 0832-66-0304
48	毎年 11月下旬		20名	片野龍次 0832-52-3910

(注)「関西」と表示のないもの以外下関にて開催

旭陵同窓会本部・各支部連絡先

支部	氏名	〒	住所	電話番号
本部	大場 仁史	751	下関市後田町4-10-1 山口県立下関西高等学校	0832-22-0892
仙台支部	梶 畑 通 男	981-32	仙台市泉区南中山3-4-18	022-376-2346
東京支部	吉 川 順 一	102	東京都千代田区九段北1-3-5九段Sビル9F 株式会社ジャパンコンピューターサービス	03-3234-7879
東海支部	山 本 研 一	460	名古屋市中区丸の内2-14-4 エグゼ丸の内403(株)CPI	052-299-1906
関西支部	内 藤 尚	569-11	大阪府高槻市南平台5-57-23	0726-96-6202
広島支部	中 村 義 惟	739	東広島市西条上市町5-5 清水建設東広島事務所	0824-23-8722
山口支部	児 玉 啓 一	753	山口市吉敷3031-29	0839-32-5801
宇部支部	富 嶋 睦 弥	755	宇部市五十目山町14-27	0836-21-8679
とようら会	水 本 智賀雄	759-63	豊浦郡豊浦町大字川棚中央6895番地 豊浦町商工会館気付	0837-72-0625
福岡支部	横 埜 賢 二	812	福岡市博多区博多駅東3-1-26 ゼンリン福岡ビル2F(株)エムエム福岡本社	092-441-6908



「最新旭陵同窓会東京支部事情」

旭陵同窓会東京支部
平成八年度幹事長 吉川 順一（42期）

同期の友人、末光久君の依頼で、東京支部の近況を一言述べさせて頂きます。

まずは、関西支部の「同窓会新聞」創刊おめでとうございます。

私共東京支部は、平成三年度に「旭陵倶楽部」を創刊し、毎年東京支部総会に向けて準備をしてきました。

記事を集め、編集・校正も当番幹事が担当します。何といても素人集団ですから、巧くまとめることが難しい。同時に広告集めも大変です。先輩や同期の仲間に協力をお願いし、後輩にも頭を下げる。その中で色々な出会いを経験し、新しいネットワークを作ることができました。

現在、わが42期生は、団塊世代として、バブル崩壊後の日本経済を支えていかなければなりません。しかしながら、会社を首になったり転職した仲間もいますし、終身雇用の崩壊を切実に感じます。まして、私もその一人ですが、自営業者は、家族や社員のために、しゃかりきで頑張っている最中です。

さて、本年の東京支部総会のテーマは、「21世紀へ向けて」旭は

編集後記

アジアから昇る。」

アジア、とりわけ現在の東アジアの成長と、郷土下関の復活を祈念して、このテーマを決めました。

七月二十日下関にオープンしたばかりの国際総合センターも「アジアの玄関口」を目指しています。今後は、私共旭陵同窓生が、

下関で育ち世界にはばたく。いわば、明治以来人材の流出をほとんど一方的に行い続けてきた下関も、ようやく人材の還流を迎える時代になったと、思います。

七月二十六日の東京支部総会も、およそ二百名の参加者で賑わい、無事に終わりました。

最後に、総会と新聞だけでなく、平成六年に発足した「旭陵ゴルフクラブ」を紹介させて頂きます。

中部銀次郎氏37期を会長に、年二回のコンペを実施しています。親睦を第一としています。が、レベルもなかなか高いとの評判です。

以上、本年の活動を簡単に報告させて頂きました。

○「旭陵関西」は、総会に二人でも多くの方の出席と、会員相互の交流を願って発行することになりました。

○佐藤定雄さんから原稿以外に、雑誌「旅と伝説」(昭四〇昭六)の写りが送られてきました。亀山神宮の「於亀銀杏」の伝説、下関の「新年尻はぐり」行事や、「毛断東海道膝栗毛」「北海道の旅」シリーズ等、佐藤さんの作品が掲載されており、昭和初期の各地の風物が、見事に書かれていました。

○原稿依頼者には、顔写真をお願いしたのですが…

○原稿や、広告をお願いし、心よく応じて下さった皆さん、有り難うございました。「名刺広告」はよいが、寄付として」という方も数名ありました。

○自分が「旭陵の幾期生」か不明という人のために

旧制中学卒業生は、卒業年にクラスを、高校卒業生(昭五五年以降)は卒業年にクラス二を、即ち、昭四十年卒業生は、四二期生となります。

○編集会議は、村上弁護士事務所で開催されました。会議後、たびたび村上さんの行きつけの「土佐っば」に全員で行き、中平社長と共に美味な海鮮料理で歓談しました。スポンサーの村上さんは、全くの下戸。本当にスマセンデタ。

○編集委員、杉(四二)末光(四二)村上(三九)古島、福田(共三五)瀬戸口(三三)内藤(三三)特に、末光さんには、よく会い長時間にわたり色々と盡力を願いました。四二期生のパワーを活用しました。

○新聞は、広告と寄付で発行を願ったが、創刊号は赤字。

来年の発行時には、皆さんご協力を期待しております。(N)